



20南土第149号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

長野県南佐久郡
南牧村長 菊池 幸彦



今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

平成20年9月19日付国道企第37号でご依頼のありました「今後の道路行政についての意見・提案について」別紙のとおり提出いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

長野県南牧村

・道路行政は、産業の発展、国民生活の向上のためにも万全を期すべき行政分野と考える。

しかし、地方道整備は大変遅れているのが現状であります。地方道は地域住民の生活に直結しており、産業の振興ばかりではなく医療、文化すべてを結ぶ正に動脈です。

道路特定財源をめぐる課題もありますが、遅れている地方道の整備、拡充を望みます。

②-1 地域の現状と抱える課題

長野県南牧村

○現状

・当村の現況は、村内を南北に縦断する国道141号線が18.49km貫通しており県道が1本、そのほか村道が総延長410Kmに亘り張り巡らされております。長野県の東端に位置する当村は東の玄関口でもあり、隣接する山梨県や関東地方等の往来が盛んであり、休養地として訪れる人も多く都市と地方を結ぶ交流のパイプとしての役割も担っています。

基幹産業は、高原野菜と観光で、高原野菜は関東はもとより関西、九州地方まで出荷しております。人口は3400程度であり、少子高齢化が進んでいる地方農村部であります。

○課題

- 1、国道141号線は流通の基軸であるがために、大型車両の通過交通が多いにもかかわらず、山間地であるため急坂急カーブな上に、狭小であり、一般車両等の通行に支障をきたしている。
- 2、幹線道路が国道141号1本だけなので、災害時等の孤立が懸念される。
- 3、少子高齢化に伴い、人口減に歯止めがかからない。基幹道路が国道だけであり、通勤にも時間がかかる為定住者流出も目立つ。
- 4、広大な大地に恵まれ基幹産業である高原野菜が栽培できるが、農業機械の大型化などにより狭小な村道が機能不良となっておりその整備が追いつかない、また舗装などの老朽化に伴い補修費の増大により財政の圧迫が始まっている。

②-2 地域の目指すべき将来像

長野県南牧村

・中部横断自動車道の完成で、日本海と太平洋を結ぶ中心に位置する南牧村は二つの海に直結し、また佐久広域圏内の交流は、ゴミ処理場、火葬場、病院等々目前に計画されている。

社会資本の整備と相まって、文化、生活の利便性が飛躍し、今の生活環境が一変する。若者の定着も図られ地域の活性化が期待できる。中部横断自動車道の早期完成を中心に道路行政の特段の進展をお願いします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

長野県南牧村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域性活力の向上	中部横断自動車道整備	中部横断自動車道は南牧を通る区間のみ基本計画路線であります。この道路を開通させることにより、緊急車両の時間短縮はもとより、地域経済の活性化、災害時の物資運搬、生活圏の拡大など、数え上げればきりが無いほど効果が期待できます。 整備計画路線に格上げし、早期完成を期待しております。	